

四月のテーマ

夫婦道



え・たむらかずみ

夫婦愛和が もたらす潤い

前

号の「今週の倫理」では、夫婦間の愛情が身体の健康

を作り出すことを述べました。今週も、夫婦と健康に関する、ある体験を紹介しましょう。

A氏の新婚時代の話です。仕事柄出張が多く、夫婦で過ごす時間は少ないものの、努めて妻と会話をするようにしていました。

当時A氏には、一つだけ悩みがありました。冬になると、肌がカサカサに乾燥することです。特に両肩の皮膚がかゆくなり、血が滲むほど掻きむしってしまうのです。

ある時、出張から戻ったA氏に、妻が、「肌着に血が付いていたけど、どうかしたの？」と尋ねました。A氏は妻に心配かけまいと、その話をしていなかったのです。

肌が乾燥して痒くなることを話すと、病院で診てもらおうよう妻に言われました。しかし、病院嫌いのA氏は、「忙しいから」と言っただけのまま放置していたのです。

その後も、ことあるごとに病院へ行くよう妻に言われます。次第にうるさく思うようになり、夫婦

の会話自体も、少なくなっていました。

当時は、仕事上でも多忙な時期にあり、小さなミスが増えていました。そのイライラから、余計に肩を掻きむしってしまいます。

業務の多忙がピークを迎えた頃、A氏は上司から食事に誘われました。上司は、仕事が忙しくなると、妻に感謝するよう心がけていると言います。「忙しい時ほど、家庭を顧みないと、良い仕事もできないからね」という言葉は、まるで、今の自分の心境を見透かされているようでした。

帰り道、上司の話を思い出しながら、自らの家庭生活を顧みたA氏。これまで「家庭のことは妻がやって当たり前」という思いでいたため、結婚以来「ありがとう」という感謝の言葉すら口にしていなかったことに気づいたのです。妻はそれでも、愚痴一つ言わずに、笑顔で自分を受け止めてくれていました。妻の気持ちを思うと、感謝の気持ちをしっかり言葉で伝えたいと思ったのです。

帰宅したA氏は、「今しかない」と思い、妻に話し始めました。

「今日は上司の話を聞いて、家庭のことを君に押し付けてきたことに気づいた。これまで家庭を守ってくれてありがとう」「いつも話を聞いてくれてありがとう」「もっと君の話を聞くように心がけます。これからはよろしくお願いします」と、三度頭を下げたのです。

頭を上げて妻を見ると、妻はポロポロ涙を流していました。その姿を見た時、「しまった！今まで我慢させてきたな」と痛切な反省がA氏に込み上げてきたのです。そして、自分のすべてを受け止めてくれていている妻の愛の深さを知ったのです。

数日後、肩のかゆみが軽減していることに気づきました。鏡で見ると、きれいに治っていたのです。A氏は「女房の涙がきれいにくれたのか」と思わずにいられませんでした。その後、かゆみが出ることはありませんでした。

夫婦の深い結びつきは、肉体をも潤す力があるのです。